学生支援 サミット 2015

実施報告書 2015



目次

- 1. 学生支援サミット 2015 報告書発行にあたって 三重大学学生総合支援センター長 後藤太一郎
- 2. 学生支援サミット 2015 概要
 - 実施日時
 - 実施目的
 - 実施プログラム
 - ・参加者
- 3. 各グループにより見出された「三重大学の強み」と 企画提案された「三重大学を発展させるプロジェクト」
- 4. 学生支援サミット 2015 アンケート結果
- 5. 資料
 - ・学生支援サミット 2015 ポスター
 - ・三重大学ホームページ トピックス掲載記事
- 6. 終わりに

学生支援サミット 2015 報告書発行にあたって

三重大学では、「学生支援サミット」と名づけたイベントを開催しています。これは、 今後の三重大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生、職員、教員がともに描 き、共有し、それに基づいて三重大学の今後の学生支援やピアサポーター活動計画を作成 する目的で、平成24年度よりはじまりました。毎回テーマを設定し、参加者はグループに 分かれてテーマについて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット2015」は7月22日に開催され、学生と教職員67名が集い、今回のテーマである「三重大学は私たちが変える」について約2時間、グループ毎に三重大学の良さや強みについて意見を出し合いました。その上で、三重大学を発展させるプロジェクトについて考え、それらの発表が行なわれました。この報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

三重大学の良さについては、ほとんどのグループからの意見として2つがありました。 1つは「環境」で、自然が豊かでゴミの分別が整備されている美しいキャンパスであることです。もう1つは「人と人とのつながり」で、学生・先生方がみんな優しく、学生同士のコミュニケーションを重視していることです。これについては、グループワークの授業などの影響が大きいようですが、大学生活の中で学生同士が支援し合うという、三重大学の学生支援が目指す点が反映されています。

今回の学生支援サミットが3回目ですが、報告書作成は今回が最初です。これまでの活動でも三重大学を発展させるための貴重な意見が提案されていましたが、それを多くの学生・教職員の皆様に知っていただく機会が少ないという状況でした。「学生支援サミット2015」での提案を多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ三重大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、学生支援サミットにご参加くださいました学生・教職員の皆様、 本活動の企画・運営、および報告書の作成にあたってくださいました、学生総合支援センターの後藤綾文先生に厚くお礼申し上げます。

平成27年9月 学生総合支援センター長 後藤太一郎

2. 学生支援サミット 2015 概要

学生支援サミットは、三重大学学生支援方針に則り、学生が学生を支援する、教職員が学生を支援することを確かめ合うことを目的としている。本年度の学生支援サミットは「三重大学は私たちが変える」というテーマを設定した。学生と教職員が協働して、三重大学の未来に向けてできることを考えることによって、自分の姿勢如何で多様な支援を受けながら様々なことに挑戦でき、三重大学自体をも変えることができると、学生が感じられることを目指した。当日は、4~6名の学生と教職員からなる12グループで、三重大学の強み(能力、素敵なところ、持ち味、良さなど)についてディスカッションを行った。さらに、グループで見出した三重大学の強みを活かして、三重大学をさらに発展させることができるようなプロジェクトを企画し、数枚の模造紙で表現した。

●実施日時

日時:平成27年7月22日(水)13:00~15:30

会場:メディアホール

●実施目的

- ・学生と教職員がつながることで、学生が学生を、教職員が学生を支援する体制を強化 し、学生支援の質の向上を図る
- ・個々の学生が三重大学のリーダーとなり、三重大学を発展させることができるような、 主体的な学生を育む

●実施プログラム

- 13:00~13:10 開会の挨拶 三重大学長 駒田美弘
- 13:10~13:15 学生支援サミット 2015 の活動説明

学生総合支援センター講師 後藤綾文

- 13:15~13:30 グループで自己紹介(名前、所属など)
- 13:30~14:50 学生・教員・職員がつながり、三重大学をより発展させるプロジェクト企画(模造紙に絵と文字で表現する)
- 14:50~15:15 各グループによるプロジェクト発表 (各グループのプロジェクト数は 2-3 個)
- 15:15~15:20 全体を終えて、参加者からの感想
- 15:20~15:25 ピアサポーター学生委員会、環境 ISO 学生委員会に所属する学生より、今年度・来年度の委員会活動に向けて一言
- 15:25~15:30 閉会の挨拶 学生総合支援センター長 後藤太一郎

活動説明資料 1



本日の流れ

- 本日の活動説明
- グループで自己紹介
- 三重大学のステキさを発見
- 三重大学のさらなるステキさUP プロジェクト企画、発表

学生支援サミット

- ・三重大学の学生支援方針に則り、 学生が、教員が、職員が学生を支 援することを確かめ合う
- 学生と学生、学生と教職員がつながり合う

アプリシエーティブ・インクワイアリー

- 「問題」に目を向ける以上に「強み」 に目を向ける。
- ・自分と組織の可能性を見出し、協 働的に夢や目標を実現する

変化への2つのアプローチ

- 問題解決型アプローチ (欠点注目型)
- →技術システムに有効
- アプリシエーティブ・アプローチ (長所注目型)
- →人間システムに有効

大学の授業がつまらない

「あの先生退屈!」 「もっと分かりやすく話してほしい!」 「こんなの習って、なんの役に立つ?」

> この質問の焦点は? 長所 or 短所?

自分が嫌い

「あいつはうまく発言できる・・・ それに比べてオレは・・・」 「あの子かわいい・・・私ってダメ!」 「また寝坊で遅刻!自分が嫌になる」 ↓ この質問の焦点は? 長所 or 短所?

- どこに焦点を当てられるかによって、様々な影響が生じます。
- 今日は、ポジティブな側面に注 目して、三重大学について考え てみましょう!!!

自己紹介ワーク

- 前期間の三重大学の生活、授業、 業務などを思い返してください。
- あなたが、「最も輝き、成長し、生き 生きとし、熱中し、自信を持ち、興 奮した経験」を1つ教えてください。
- 1人1分で!

自己紹介ワーク

- 前期間の三重大学の生活、授業、 業務などを思い返してください。
- あなたが、「自分も捨てたもんじゃないな、なかなかやるな、へへへと思えたこと」を1つ教えてください。
- 1人1分で!

「自分も捨てたもんじゃないな、なかなかやるな、へへへ」

= あなたが持つステキなところ、力、 強み、良いところ、がんばっていると ころ

三重大学のステキさ発見ワーク

- ・三重大学のステキさ(強み、能力、 持ち味、良さ)や三重大学生のステ キさを挙げる。
- 最後に2 3つにまとめて、そのイメージを図や絵、文章で表現する。

三重大学のさらなる ステキさUPプロジェクト企画

- 三重大学があなたが望んでいる通りにステキになるとします!
- そのステキな三重大学の理想像を 実現するために、どのようなプロジェ クトができるでしょう?

三重大学のさらなる ステキさUPプロジェクト企画

最後に2 – 3つにまとめて、そのイメージを図や絵、文章で表現する。









プロジェクト発表

- 各グループ、模造紙をすべて貼り付けてください。
- 発表は各グループ2分以内で!

ふりかえり

- ①自分たちのグループの良かったところ
- ②他のグループから、内容や発表について学んだところ
- ③その他、感じたこと、考えたこと

学生委員会の方から

- 今後の学生委員会の活動に活かしていきたいこと
- · 環境ISO学生委員会
- ピアサポーター学生委員会

学生総合支援センター長 後藤先生より



活動説明資料 2

グループワークの活動内容

① 三重大学の良さ、強み、素敵なところを見つける。(35分)

話をしながら模造紙に思いつくだけ書いてみましょう。手を動かすことで意見がふくらんできたり、周りの人が書いた意見を見て、新しい意見が出たりします。

①-1 三重大学の良さ、強み、素敵なところをグループで 2-3 つくらいにまとめ、 模造紙に表現する。

まとめたら1枚の模造紙に絵や図、文章で表現します。基本的には箇条書きでも構いません。

② 今ある三重大学の良さを活かして、三重大学をさらに発展させるようなプロジェクトを考える。(45分)

またまた、模造紙に思いつくだけ書いてみましょう。ポイントは、三重大学がもっとこうなったらいいなという理想の三重大学の姿を想像することです。

そして、理想の三重大学に近づくためには、どんなプロジェクト(イベント企画や 現在からよりよくなるための工夫など)が企画できるか考えてみましょう。具体的に (お金はどうするか、土地はどうするか、時期はどうするか、内容はどうするか)、実 行できそうに思えるまで考えてください。

②-2 三重大学をさらに発展させるようなプロジェクトを 2-3 つくらいにしぼり、 模造紙に表現する。

1-2枚の模造紙に絵や図、文章で表現します。プロジェクトについては、どのようにすると他者に見やすいか、他者へのインパクトがあるかなども考えて、模造紙を完成させてくださいね。

③ グループで考えた、三重大学の良さや強みと、プロジェクトを発表する! 各グループで、発表者を決めてください。2分くらいで発表してもらいます。



どんなステキな企画が 出てくるかな?



3. 各グループにより見出された「三重大学の強み」と 企画提案された「三重大学を発展させるプロジェクト」

4~6名の学生と教職員からなる12グループで、三重大学の強み(能力、素敵なところ、持ち味、良さなど)についてディスカッションを行った。ディスカッションを通して挙げられた三重大学の強みを2~3つくらいにまとめ、模造紙に絵や図、文字で表現した。次に、各グループで見出された今ある「三重大学の強み」を活かして、さらに「三重大学を発展させるプロジェクト」を考えた。理想の三重大学の姿を想像し、その理想の姿に近づくためには、どのようなプロジェクト(イベント企画や現在からより良くなるための工夫など)が企画できるか、ブレインストーミングを行った。最終的に、2~3つくらいの企画にまとめあげた。企画実施できるほどに具体的に(必要な資金や土地、場所はどう準備するか、実施時期はいつにするのか、実施内容はどうするかなど)考え、模造紙に絵や図、文字で表現した。

学生も教職員も身を乗り出して議論した、各グループの「三重大学の強み」と「三重大学を発展させるプロジェクト」を次頁より示す。

A グループ

●三重大学の強み(図1)

・人文学部:校舎内に生協の売店がある。校舎がきれい。

・教育学部:コースごとに校舎や教室があり、先輩や先生方と関わりやすい。

・医学部:付属病院を持っている。

・工学部:風力発電などの研究をしている。

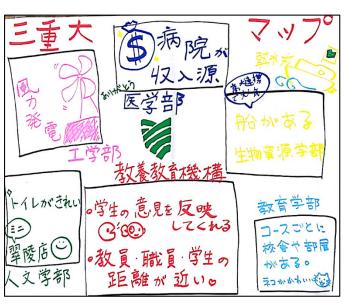
・生物資源学部:勢水丸(実習船)を所有しているなど特色がある。

・教養教育機構:学生の意見を反映してくれる。学生と教職員の距離感が近い。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図2)

・プロジェクト三重大 No.1 (仮)

大学ブランドランキング東海1位を目指す。具体的には、スタートアップセミナーで、大学ブランドランキング1位になるために、三重大学の魅力をアップするにはどうしたらいいかというテーマで、前期間グループワークを行う(アクティブラーニング)。スタートアップセミナーは現在は同学部だけのクラス編成であるが、全学混合クラス編成に変更する。全学混合クラス編成にすることで、考え方や価値観などの異なる他学部の学生との交流を増やすことができる。スタートアップセミナーで取り組んだ成果を、高校生が興味関心を持つ内容(就職先、キャンパスライフ、通学可能範囲、おもしろい講義など)も含めまとめあげ、東海圏の高校などで発表する。学生が出張講義のように高校まで赴く、または遠隔地であればインターネット通信を用いたTV会議などを用いる。東海圏において三重大学の好感度が上がり、三重大学の受験者が増えていくことが考えられる。



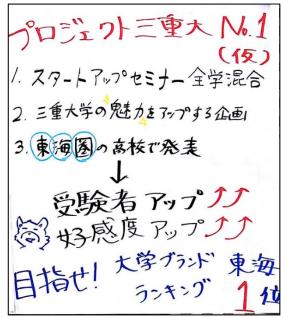


図 1 図 2

Bグループ

●三重大学の強み(図3)

・施設:5つの学部が1つのキャンパスにある。

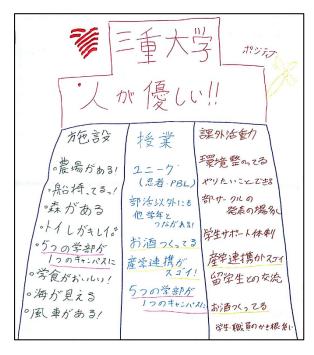
・授業:部活動・サークル活動以外で他学年とつながることができる。

・課外活動:やりたいことができる。学生のサポート体制がある。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図4)

・学生が学生に情報発信のできる学生掲示板作成

モバイル情報案内や Moodle などに、学生が自分たちの所属する部活動・サークル活動の情報を発信できるようにする。三重大学では、部活動・サークル活動に参加している学生数が多く、学生たちは熱心に活動に取り組んでいるが、部・サークル同士の関わりが少ないために情報を共有できていない。チラシなどを手配りすることで情報発信しているが、多量の印刷用紙を使っていること、必要がなくなればごみとなっていることが問題である。そのため、学生掲示板で部活動の大会や、サークル活動の大会や発表会などの情報を簡単に知ることができれば、応援なども行きやすくなり、お互いの部・サークル同士の関わりも増え、学生同士の関わりも増える。三重大学での学生生活がより良くなると考えられる。



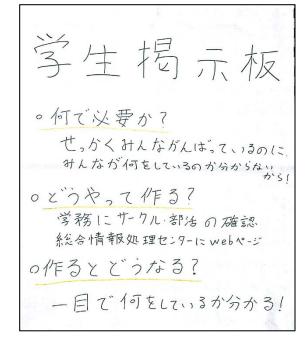


図 3

Cグループ

- ●三重大学の強み(図5)
 - ・環境:自然、動物が多い。ゴミの分別がしっかりしている。
 - ・人と人とのつながり:学生・先生方がみんな優しい。小人数の授業、PBL 教育が充実している。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図6)

・学生、教職員で交流するイベント

サマーフェスティバル、学部等パーティ、留学生との PBL を実施する。サマーフェスティバルは、学祭とオープンキャンパスを合わせたようなイベントで、三重大学生も中高生、その家族も楽しめるイベントである。部活動・サークル活動の発表会や、教員や学部生の発表、屋台などでの販売を行う。学部棟パーティーは、全学生・全教職員が参加でき、交流できるイベントである。5 学部が毎月持ち回りで、パーティーの会場となるため、学生・教職員に周知されやすく、他学部の学生、教職員と関われることが見込まれる。留学生との PBL は、留学生と日本人学生の交流をさらに増やすため、英語または日本語での議論を通して関わるものである。



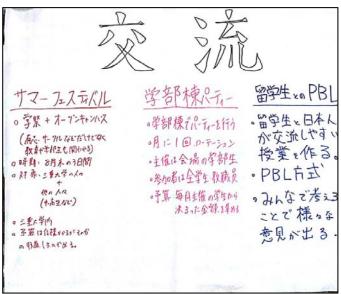


図 5

D グループ

●三重大学の強み(図7)

・大学:エコ大学、風車がある、海が近い

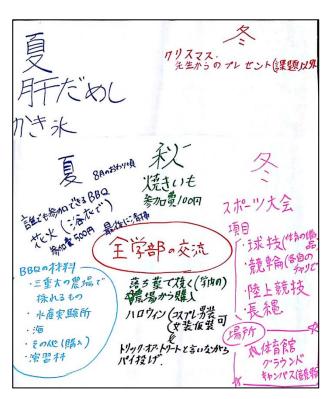
・学生:素直、他学部に友だちができる。先輩に質問できる。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図8)

・全学部交流イベント

季節ごとに全学部の学生が参加できるイベントを開催する。夏には、誰でも参加できるバーベキュー、花火大会、肝試し、かき氷、秋には焼き芋、ハロウィン、冬にはスポーツ大会などを実施する。バーベキューや焼き芋を実施するために必要な材料は、三重大学農場で栽培されるものを用いたり、スポーツ大会では体育館にあるものや自分の自転車を用いて、お金をできるだけかけずに誰もが参加しやすい工夫を考えている。





⊠ 8

E グループ

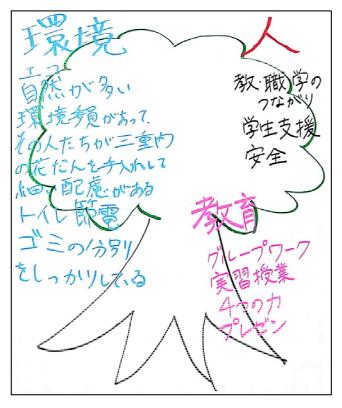
●三重大学の強み(図9)

- ・人:学生と教職員のつながりを大事にしている。落し物をしても届けられている。
- ・環境:エコ大学であり、ごみの分別がなされている。
- ・教育:グループワークや実習、スタートアップセミナーなどのプレゼンテーションを 実施する授業がある。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図10)

・学生だけでなく、教員・職員も一緒に楽しむ学祭

学生と教職員とのつながりを増やすため、現状の学祭をさらに一緒に楽しめる学祭につくりあげる。具体的には、教職学共同のバンドチーム、スポーツチームを編成する。学生にとって普段は見ることのできない教職員の意外な一面や趣味などを知ることができ、親近感がわき、その後も関わりやすくなることが推測される。また、ただ関わりを増やすだけでなく、学祭にて部活・サークルのニーズと教員・職員のニーズをつなげる場をつくる。広報室とラジオサークルとがつながれば、ラジオサークルに学祭の紹介をしてもらうことで、それが大学の広報活動にもつながる。



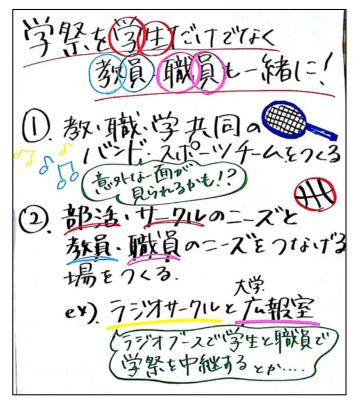


図 9 図 10

F グループ

●三重大学の強み(図11)

・環境:緑が多い。ごみのポイ捨てがない。ゴミ箱が多い。再生紙からつくられたトイレットペーパーを使っている。海が近くて自然が多い。

・人間性:他県出身の学生や他学部の学生たちと関わることができる。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図12)

• Re: Point Project

環境先進大学として、環境活動を推進する。リリパックの回収率(現在約40%)を上げるために、Mie-Uポイントと連動させ、リリパックのお弁当箱の容器をリリパック回収箱に捨てると、Mie-Uポイントがもらえるようにする。そのために、リリパック回収箱をメインストリートに増設する必要がある。リリパックの回収という最も身近な環境活動をすることで、Mie-Uポイントがたまることは学生にメリットがあり、学生の環境活動への関心を高めやすい。三重大学として、さらに環境活動を推進できるのではないかと考える。





図 11

Gグループ

- ●三重大学の強み(図13)
 - ・PBLの授業が充実している。
 - ・学生が真面目、優しい、暖かい。学生支援サミットのような教職員と話す機会がある。委員会活動、部活動・サークル活動を頑張っている。いくつもの県から学生が集まっている。
 - ・自然が多い。エコ大学である。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図14)

・新しい授業をつくる「CUBE」プロジェクト

より良い教育を目指し、体験型授業を中心とした語学の新しい授業をつくる。具体的には、英語で書かれたレシピ(三重県の特産物や世界各国の料理)を見て、英語を話しながら、料理を作って食べる。他にも、三重大学の自然の中で英語を勉強する、留学や旅行でのトラブル回避、自分から話しかけるコツ、留学生の案内などをする。英語だけでなく、多言語においても同様の授業を行い、多様な文化を学ぶ。

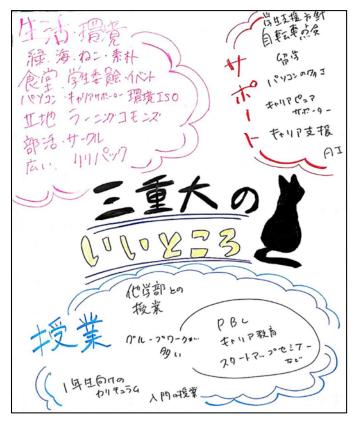


図 13

Hグループ

- ●三重大学の強み(図15)
 - ・生活・環境:自然が豊かである。ラーニングコモンズがある
 - ・サポート:学生支援や就職支援、留学の支援が充実している。
 - ・授業:グループワークが多く、学生同士のコミュニケーションを重視している、幅広い分野の授業を受けられる。
- ●三重大学を発展させるプロジェクト(図16)
 - ・教職員・学生協働三重大 PR プロジェクト

学生広報チームを主体とし、PR プロジェクトチームをつくる。具体的には、学生用 Moodle をつくり、一学生から全学生に向けて、委員会や部活動・サークルの活動やイベントの告知を行うことができるようにし、誰でもが参加できるようにする。イベント等 の告知だけでなく、普段から学生が交流できるようにする。また、SNS やソーシャルメディアを利用し、三重大学全体から学内外に向けて、授業内容や授業形態、三重大学全体のことも発信する。



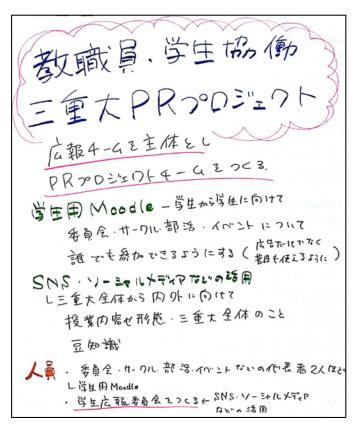


図 15

図 16

Iグループ

- ●三重大学の強み (図 17)
 - ・自然が多い。
 - ・学生が元気である、のんびりしている。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図18)

・環境大学ならではの清掃プロジェクト

学生が大学全体を清掃するイベントを実施する。参加賞として、落としそうな単位プレゼント、TOEIC が免除されるなどの配慮、不参加の学生は、一番多く休んだ講義の単位不認定の可能性もある。清掃活動をできるだけ楽しく感じられるよう、学生が元気よくごみを集めるよう、ごみを多く集めた人や、グループには賞品のプレゼントなど、ゲーム性を高くして実施する。



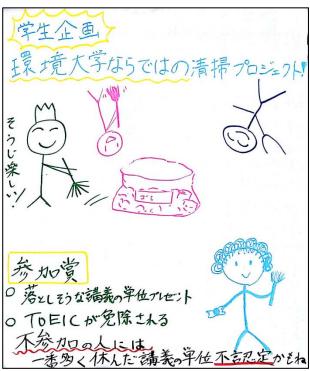


図 17 図 18

Jグループ

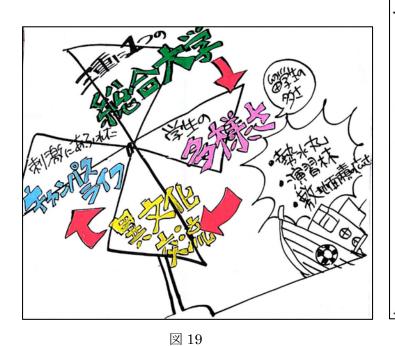
●三重大学の強み (図 19)

- ・三重県に一つしかない総合大学:地域密着の大学である。施設が充実している。
- ・学生の多様さ:いろいろな考えや趣味を持った人と出会える。
- ・刺激にあふれたキャンパスライフ:いろいろな先生がおり、いろいろな授業 (PBL、 勢水丸などでの実習)がある。
- ・異文化交流:留学生が多い。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図20)

・三重大学生が三重大学を知る授業 「三重大"学"」 開講

教養教育科目を通して、より他学部の学生と関わり、学び合うために、他学部の学びを知る授業を開講する。他学部の学びを知る中で、他学部の学生(先輩も含め)と関わることができる。学部生向けのオープンキャンパスのように、各学部を実際に巡り、体験授業などを受ける。他学部の学びを知ることで、自分自身の所属する学部の学びについても、改めて気づくことがあると考えられる。



三重大学

学期 前期 [開講時間] 月12.3.4.5.6.7.8 水1.2.3.4.5.6.7.8

單位 2 一級 選択

(全学必修がないないは)

年次 学部 1年次 授業的法 課外演習 座学。

概要: 三重ス学の学部についての理解を深める.

到老目標:所屬学部外の営生の交友の輪を広げると 同時は、他学部はついての理解を深める。

授業計画(評価はしたトリス行う)

第1回:オリエテーション(講義内容就験・単位)

第2回·第3回: 教育学部 16047 第4回·第5回: 生物資源学部 16047.

第5回・第7回: 人文学部について. 第4回・第9回: エ学部について. 第10回・第11回: 医学部について.

※ 3.5.7.9.17 回次比実際心學部棟等以訪問する

図 20

K グループ

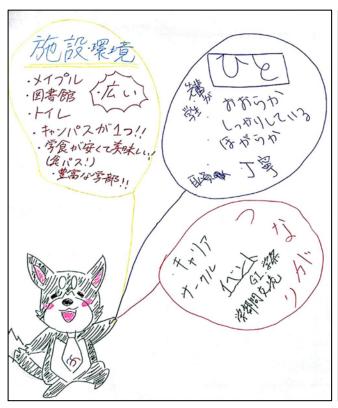
●三重大学の強み(図21)

- ・施設:5学部が一つのキャンパスにある。
- ・人:学生はおおらか、ほがらかで、しっかりしている。教職員は丁寧である。
- ・つながり:学生支援サミットのような学生と教職員とつながるイベント、学生同士が つながるイベント、キャリア支援、障がい学生支援、留学生支援、先輩後輩など学生 同士のつながり、学部間の交流がある。

●三重大学を発展させるプロジェクト(図22)

・学生と教職員がつながるイベント

学生と教職員とのつながりをさらに深めるために、両者が楽しめるイベントを企画する。具体的には、24 時間耐久レースと逃走中ゲームを実施する。24 時間耐久レースは、鈴鹿サーキット場を借り、大学の通学などで使用するママチャリでレースを行う。逃走中ゲームは、三重大学内全体を逃げる学生と、学生を捕まえる教職員とに分かれ、あらかじめ決められた時間を逃げ続けることができた学生は賞品をもらうものである。陸上部と医学部に協力を要請し、怪我人や急病者の対応をする。学生と教職員が一緒に楽しむことで、より身近な存在としてつながることができると考える。



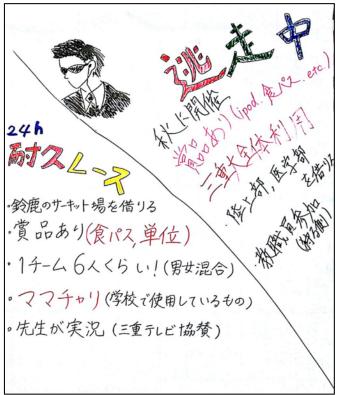


図 21 図 22

Lグループ

- ●三重大学の強み (図 23)
 - ・建物・エコ・自然:5 学部が一つのキャンパスにある。学生の交流スペースが多い。 スマートキャンパスであり、自然が多い。
 - ・人・国際: ユニークな先生、落ち着いた学生が多い。留学生も多い。
- ●三重大学を発展させるプロジェクト(図24)
 - ・年1回ギネス挑戦プロジェクト

三重大学の広さを活かして、学生と教職員の一体感を高めるイベントを実施する。具体的には、大人数で参加できるギネス記録の更新に挑む。学生と教職員が一つのことに取り組み、つながることができ、教職学で三重大学を盛り上げていく気持ちを高めていくことができると考える。

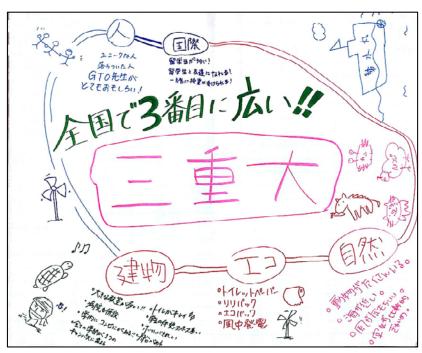
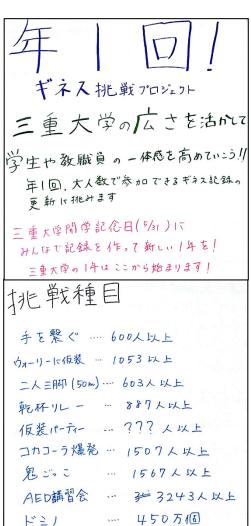


図 23



 $\boxtimes 24$

4. 学生支援サミット 2015 アンケート結果

学生支援サミット 2015 参加者を対象に、学生支援サミット 2015 の満足度、学生や教職員との関わりをどのように感じた等について、アンケート調査を実施した。参加者、アンケート回答者について表 1-4 に、アンケート項目、及び回答結果を図 25-30 に示す。アンケート項目それぞれについて、「全くあてはまらない」を 1、「よくあてはまる」を 5 とする 5 件法で評定させた。学生はすべての項目において、教職員は項目 4 以外において、「ややあてはまる」「よくあてはまる」と肯定的に回答した者の割合が 85%以上を示していた。自由記述による回答(表 5)には、「職員さんなど普段お話する機会がない方と話をすることで、新しい考え等に触れられてとても有意義な時間でした」、「学生のエネルギーがすごかったです」、「三重大学の発展について話せた時間は素晴らしいと思いました」、「自分達のプロジェクトが採用されると嬉しいです」という、学生支援サミット 2015 に対する肯定的な意見が多く挙げられていた。学生と教職員がお互いに刺激を受け、さらに三重大学について真剣に議論した様子がうかがわれた。

表 1 学生支援サミット 2015 参加者

	参加人数
学生	44
職員	16
教員	9
合計	69

表 3 回答者の所属

学部	人数
人文	12
生物資源	4
教育	24
エ	3
医	0
大学院	0
教職員	18
合計	61

表 2 回答者の属性

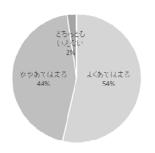
14.51	, der			
性別	人数			
女性	31			
(学生)	27			
(教職員)	4			
男性	30			
(学生)	16			
(教職員)	14			
合計	61			

表 4 参加のきっかけ (複数回答)

広報媒体	人数
教員	39
友人	1
職員	14
その他	7
合計	61

左の円グラフは学生の回答、右の円グラフは教職員の回答の割合を示す。

図 25. 項目 1 「学生支援サミット 2015 は 有意義だった。」



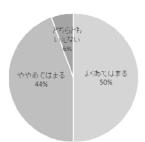


図 26. 項目 2「三重大学の学生・教職員 さんの強さ・カ(エネルギー)を感じた。」



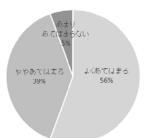
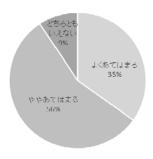


図 27. 項目 3「三重大学での今後の生活・ 仕事を積極的に取り組もうと感じた。」



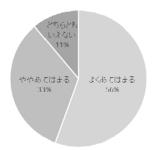
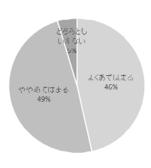


図 28. 項目 4 「自分たちの姿勢や行動で、 三重大学を変えていけるように感じた。」



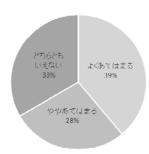
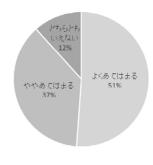


図 29. 項目 5「これからも、学生支援サミット のような、学生と教職員がつながるイベント があれば参加したい。」



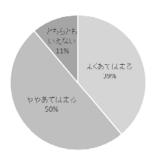


表 5 学生支援サミット 2015 に対するご感想、ご意見、ご質問などの自由記述

楽しかったです。実現するプロジェクトが 1 つでもあれば、また今後もやりやすくなると思います。ぜひ実現してほしいです。

とても楽しく参加させていただきました。自分達のプロジェクトが採用されると嬉しいです。

実現したらいいですね。

予想以上の楽しさでした!!後藤先生、告知して頂いて本当にありがとうございました。

とってもいいプロジェクトを考えられて、たのしかったです。

今日できたプロジェクトが実現すると良いと思います。

職員さんなど普段お話する機会がない方と話をすることで、新しい考え等に触れられてとても有意義な時間でした。

さまざまな人と交流し、彼らと三重大学の発展について話せた時間は素晴らしいと思いました。素敵なサミットだと思いました。

気づかなかった三重大の長所を知ることができ、良かったです。

教職員の方と話せて有意義でした。

おつかれさまでした。いろいろな人とかかわれて楽しかったです。

AI の授業は受けさせて頂きましたが、グループに教職員も入って頂いて、様々な世界を見られたかなと思います。

とても有意義なイベントになったと思います。お疲れ様でした。

学生のエネルギーがすごかったです。

楽しかったです。ありがとうございました。

楽しかったです!

お疲れ様でした!!

すごく有意義で楽しい時間でした。ありがとうございました。

楽しかったです!

とても楽しかったです。ありがとうございました。

もう少し時間を長くとってもいいと思います。

トイレの時間があると良い。

使用したアンケート

学生支援サミット 2015 に関するアンケート

本日はご多忙のところ、本サミットにご出席を賜り、誠に感謝申し上げます。 お手数をおかけいたしまして、誠に恐縮ではございますが、以下の質問にお答えください。

A. あなたについて教えてください (当てはまるものにOをつけてください)。								
1. 性別: 女性	生 男性							
2. 所属: 学部	部生 (学部	年生	主)					
大学	学院生 (研究科	修士課程•	博士課程	年	生)		
教暗			15					
37114								
B. 学生支援サミット	へのことは何を通して	知りまし	たか					
	受業で告知)			2 暗号か	G (5	ママル 生	で国知)
1. 教員から (f. 4. その他 ()	Z. XX	(3.5)	ひ、 喊貝か	5 (2	다		,
4. 2018)							
C. 以下の項目につい)て あかたに最もね	るてはまる	る数字に1つ	だけのをつい	+71	ださし	.)	
O. KTOGALCOV	TCC WALLERY OF	2 (1886)	DATICI D	10170651	ま	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	•0	
					つ	あ	1.2	
					たく	まり	どち	
					あ	あ	5 +	5 よ
					ては	ては		りくあ
					ま		11 7	てて
					らな		えなま	まま
					61		11	
1. (学生の方、教理	職員の方→)学生支援	サミット	2015 は有意	義だった。	1 -	- 2 —	3 — 4	_ 5
2. (学生の方→) Ξ	 三重大学の教職員さん(の強さ・力	(エネルギー	·) を感じた。				
(教職員の方→)	三重大学の学生さんの	の強さ・カ	(エネルギー	・) を感じた。	1 -	- 2 <i>—</i>	3 — 4	— 5
3. (学生の方→)	三重大学での今後の生	活を積極的	的に取り組も	うと感じた。			0	
(教職員の方→)	三重大学での今後の仕	事を積極	的に取り組も	うと感じた。	- 1	- 2 —	3 — 4	— 5
4. (学生の方、教師	職員の方→) 自分たち	の姿勢や行	う動で、三重	大学を変えて	1 -	- 2 —	3 — 4	4 — 5
いけるように感								
	職員の方→) これから			のような、学	1 -	- 2 —	3 — 4	<u> </u>
生と教職員がつ	ながるイベントがあれ	1は参加し	たい。					

D. 学生支援サミット 2015 に対するご感想、ご意見、ご質問など、ご自由にご記入ください。

5. 資料

●学生支援サミット 2015 広報ポスター



●三重大学ホームページ トピックス掲載記事

「学生支援サミット2015〜三重大学は私たちが変える〜」が開催されました

2015年7月24日

7月22日(水)、総合研究棟 II メディアホールにおいて、「学生支援サミット2015~三重大学は私たちが変える~」が開催されました。



本サミットは、本学の学生支援方針に則り、学生、教職員が学生を支援することを確かめ合い、繋がり合うことを目的としています。

冒頭、駒田美弘学長から「天候の悪さも吹き飛ばすような熱気のあるサミットにしてほしい。三重大学らしい大学づくりを考え、 ユニークなプロジェクトを企画してください」と開会の挨拶がありました。今年度は三重大学の長所に注目して本学をより発展させるプロジェクトを学生、教職員を交えた12チーム5、6人に分かれ、学生が中心となって企画しました。

自己紹介のときにはお互い堅かった表情も、色々な意見を出し合い、話し合う中で次第にほぐれ、時には笑いが起こるなど、和気 あいあいとした雰囲気となりました。









プロジェクト発表では、「学生だけでなく、教職員で楽しむ学祭」「学生と教職員で年1回ギネスに挑戦」など、学生と教員がよりつながることのできるプロジェクト、「他学部の学びを知る『三重大"学"』という授業開講』「他学部学生との交流イベント」など、学生同士がよりつながることのできるプロジェクト、さらに高大連携につながるプロジェクト、大学での学びがもっと高められるプロジェクトなど、個性溢れるユニークな企画が発表されました。

また、学生代表として、キャリアピアサポーター学生委員会と環境ISO学生委員会の学生から、今回発表されたプロジェクトを参考にし、学生と教職員がつながれるイベントを実際に開催して、三重大学を盛り上げていきたいとの発言がありました。









閉会の挨拶として、学生総合支援センター長の後藤太一郎教育学部教授は、「教職員が大学のことを考えるのは当たり前のことだが、学生にも真剣に考えてもらう大変良い機会となりました。三重大学の将来像を共に語ることはとても重要。今日発表されたアイデアは全教職員に知ってもらって、益々良い大学にしていきたい」と話しました。

企画されたプロジェクトが実現するか楽しみですね。

6. 終わりに

学生支援サミット 2015 の実施にあたり、大変多くの方々にお世話になりました。学務部 葛西勇部長、学生サービスチーム清水久己課長、学生サービスチーム研屋元弘副課長、学生 支援サミット 2015 の企画運営をサポートしてくださった職員の皆様には心より感謝申し上げます。

また、学生支援サミット 2015 の趣旨、学生教育への思いに賛同してくださり、学生支援サミット 2015 にご参加くださった教職員の皆様にも、記して感謝いたします。教職員の皆様が三重大学について熱く考えておられ、自分たちと意見を交わし、向き合ってくださる姿こそが、学生たちの胸に響いたことと存じます。

学生支援サミット 2015 では、学生と教職員が「三重大学の強み」を見出し、「三重大学を発展させるプロジェクト」を企画する活動を実施しました。同じ時間と場所、活動を共有することで、何よりも学生と学生、学生と教職員の方々とのつながりができてほしいと考えております。学生と教職員がつながることは、目にみえる支援に直結しないかもしれません。しかし、目に見えない支援が、必要な時に目に見える支援につながると思います。学生が今後の学生生活で何か困った際に、各部や各学部の教職員の方々とつながっていることが何らかの支援となることがあります。大学の中で、1人でも顔を知っている、自分のことを見守ってくれている大人がいることは、大きな支援となることがあります。学生と学生、学生と教職員がつながることで、三重大学全体で1人の学生を支える、そんな学生支援を目指していきたいと考えております。

最後になりますが、学生支援サミット 2015 に参加し、三重大学の未来について熱心に議論する姿を見せてくれた学生の皆様には改めて深く感謝いたします。

2015年9月

編集:三重大学学生総合支援センター

発行:平成27年9月

